

# 宮川の風 第61号

平成30年10月12日（金）発行

宮川小学校校長室からのたより

私事ですが、定年退職後は、家事を専門にする「主夫」になり、炊事・洗濯・料理などを楽しくこなしながら自分の時間を楽しみたい、と思ったりします。（もちろん現実には、そんな状況はつくれないのですが・・・。）

しかし、家事を軽く見てしまうと「主婦」の方々から睨まれそうです。「家事はそんなに簡単で気軽なものではない」と。「子育て」の現役世代の方々に言わせると、なおさら強い口調で批判が飛んでくるような気がします。「子育てをしながらの家事がどんなに大変か、あなたには分かるはずがない」と。確かに、家のことを一手に引き受けるのは非常に大変なことであり、そのことを家族が理解することが大切なことだと思います。

裏面の話をお読みください。

子育てをしやすい社会なのかについては、それぞれの見方があると思います。ここでは、身近な家庭の中での問題について考えましょう。家庭内での役割分担が重要です。家族間での役割分担ができていれば、一人に家事が集中せず、バランスの取れた家庭生活に近づけそうです。家庭内で、どんな仕事があるのか、誰がどんな無理をしているのか、誰が何を分担できるのか、などいろいろ話し合うことが重要です。その中で、子どもたちにできることを見つけてお手伝いをさせることを考えてみましょう。

## 心の準備

来週の全校音楽で発表する3年生の練習風景。練習を始める前の担当職員からの話です。「たった一度の発表に全力で取り組むことが大事。てげてげではいけない。あこがれのスポーツ選手も懸命に練習をしているから見ている人に感動を与えられる。懸命に練習した後の失敗は、構わない。すばらしい発表にしましょう。」

非常に大切なことを学んだ子どもたちの発表が、今から楽しみです。

「みなさんおはようございます。こちらは、MKH 宮川小学校校内放送局です。これから朝の放送を始めます。」

放送委員会の子どもたちのやさしい声、朝の学校の空気を引き締めてくれます。今月の目標や今日の予定などを知らせてくれます。放課後も同様に一日の終わりや明日へつなげる希望を伝えてくれます。

聞く人にとって聞きやすい早さや言葉をはっきりと言うことなどに気を付けながら放送をしてくれます。学校全体に流れる声ですから責任は重大です。放送を聞いている相手のことを思う気持ちを忘れないことが、耳にすんわり入ってくる放送にするための絶対条件のように感じます。

## ある日のできごとから

市内全小学校から選手が一堂に会して行われた市陸上記録会。本校からは、24人の5・6年生が出場しました。運動会が終わってからの短い期間ではありましたが、朝や昼休み、放課後と練習を積んできました。お知らせしました新しいラインも十分活用しながらの練習でした。学校では経験しないセパレートコースでの競技に戸惑う選手たちもいました。ハイレベルな実力を見せる選手を見て、驚いた子もいるでしょう。多くの選手たちの中で「自分も結構よい結果がだせた」と自身を付けた子もいるでしょう。5年生の選手たちは、来年も来るぞという気持ちになったと思います。宮川小の選手たちも懸命に練習の成果を発揮しようがんばっていました。それぞれの思いを抱いた記録会だったと思います。

経験することで学ぶことが多い子どもたちです。経験の場は、いろんなところにあります。今度の日曜日に行われます「宮川校区運動会」も貴重な経験の場になります。たくさんの子どもたちに参加してほしいと思っています。

（文責；鹿児島市立宮川小学校長 松永幸二）